

第15章 工事しゅん功 目次

第15章 工事しゅん功 目次	1
第15章 工事しゅん功	2
15-1 工事書類の簡素化について	2
15-2 電子納品について	2
15-3 再生紙の使用等について	2
15-4 工事しゅん功図	2
15-5 しゅん功原図の記載方法	3

第15章 工事しゅん功

15-1 工事書類の簡素化について

工事書類の簡素化は、下記URLに掲載している「札幌市 工事書類簡素化要領」による。なお、当該要領の対象工事は、札幌市発注の設計金額が250万円を超える土木工事とする。

https://www.city.sapporo.jp/zaisei/kojikansa/kantoku/kantoku_kensa.html

※1 下水道管きょ工事では、「工事書類簡素化一覧表」のうち、「(別表1-2) 監督員が準備する書類 (2/2) 品質管理 ⑦材料品質管理」に記載している書類のほか、「下水道用資機材使用届」を作成すること。なお、書類の種別および確認方法は下表を参照すること。

(別表1-2) 監督員が準備する書類 (2/2) (監督員に提出済みの資料)

分類	書類名 (電子データ○、紙■、選択△)	作成書類の確認方法			備考	該当根拠
		監督時 確認書類	監督時 提出書類	検査時 確認書類		
品質管理	書類の種別は①監督員提出時 書類の種別は②検査時(監督員が作成)	①	②			
	⑦ 材料品質管理	△	■	○	○	
	海外建設資材品質査定證明書				※ 海外のJISマーク表示認証工場以外で生産された建設資材を使用する場合に当該證明書、あるいは日本国内の公的機関で実施した試験結果資料を提出する。	土木工事共通仕様書1-2-2-1
	指定材料品質證明・試験結果				※ 計画図面に記載して試験を行なっている工事材料の試験結果、見本又は品質を証明する資料を事前に提出することと規定された工事材料(JISマーク表示品を除く)	土木工事共通仕様書1-3-6-2アスファルト舗装の材料
	下水道用資機材使用届				下水道管きょ工事仕様書3-2-1	

15-2 電子納品について

受注者は、施工計画書、施工協議簿、出来形及び品質管理(表:図)、工事写真等、土木工事共通仕様書や法律等で紙媒体での提出が義務づけられている書類を除き、全て電子納品による提出を行うことができる。対象については監督員と協議すること。

提出ファイルのデータ形式は、施工段階においては、ファイル形式をMicrosoft Excel形式、Microsoft Word形式、PDF形式、DWG形式、DXF形式を標準とする。竣工時は、PDF形式を標準とする。

電子データの受け渡しは電子メール、電子媒体(CD・DVD)、ASP等から監督員と協議し、適切な方法を選択すること。電子納品の対象とした書類については、施工段階においても紙媒体による提出は求めない。

電子納品を行った書類については、検査時にもPDFファイルによる検査を標準とするため、検査時には必要となるパソコン等の器材を用意すること。

15-3 再生紙の使用等について

紙の使用量の削減、工事竣工書類の再資源化、保管スペースの縮小等に配慮し、各種提出書類には再生紙を使用し、両面印刷を行なって作成するよう努力すること。

なお、デジタルカメラに関する規定等は、第16章5項の写真管理基準を参照すること。

15-4 工事しゅん功図

工事しゅん功図とは、下記のものをいう。

1 出来高図

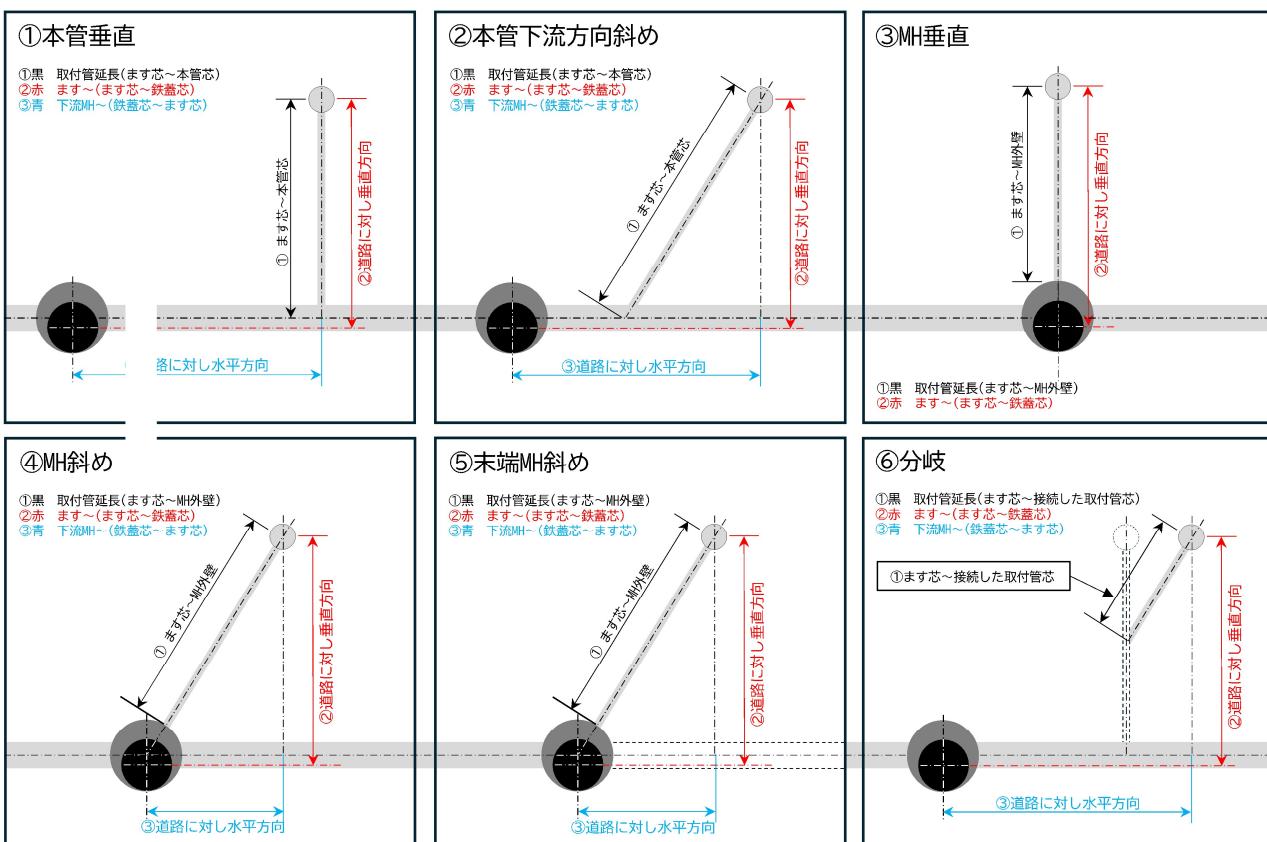
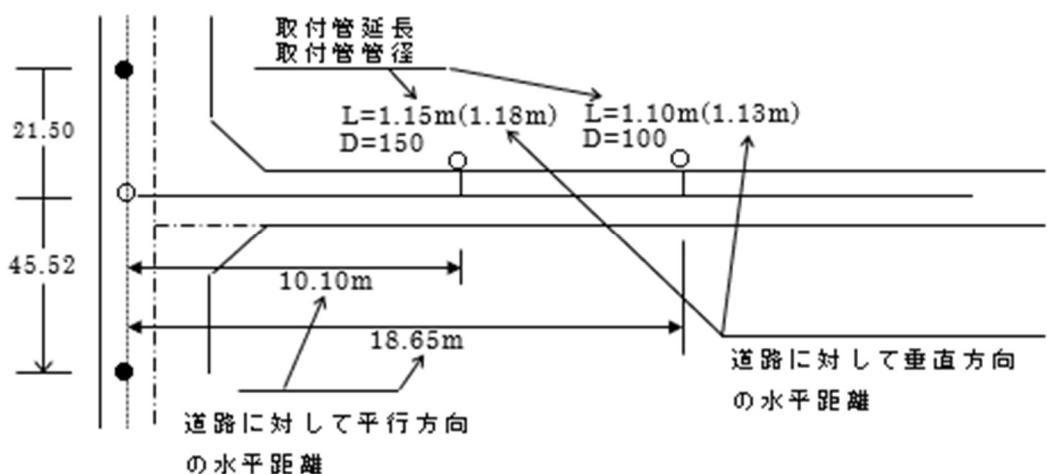
出来高(しゅん功値)を図面に朱書きで追記したもの。

2 しゅん功原図

出来高（しゅん功値）等を記入した図面（15-3 参照）

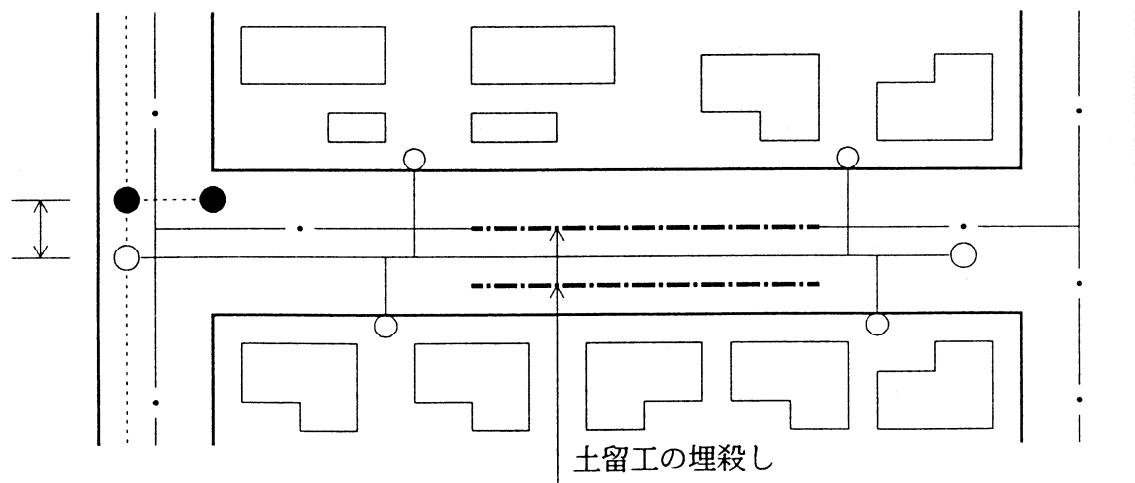
15-5 しゅん功原図の記載方法

- 1 延長、管底高、地盤高、土被り等を正確に記載すること。
- 2 汚水枠、宅地雨水枠の設置位置及び距離は正確に記入すること。
- 3 既設管渠に人孔を設置した場合には、上流及び下流の各既設人孔からの距離を記入すること。
- 4 公共污水ます、宅地雨水ます及び取付管については、枠の規格・数量及び取付管の延長（枠中心から本管芯までの水平距離（接続先が人孔の場合は人孔外壁までの水平距離））を記入する。また、ますの設置位置及び距離は人孔中心からます中心までの、道路に対して平行・垂直方向のそれぞれの水平距離を記入すること。水平距離の考え方については、下の図を参考にすること。



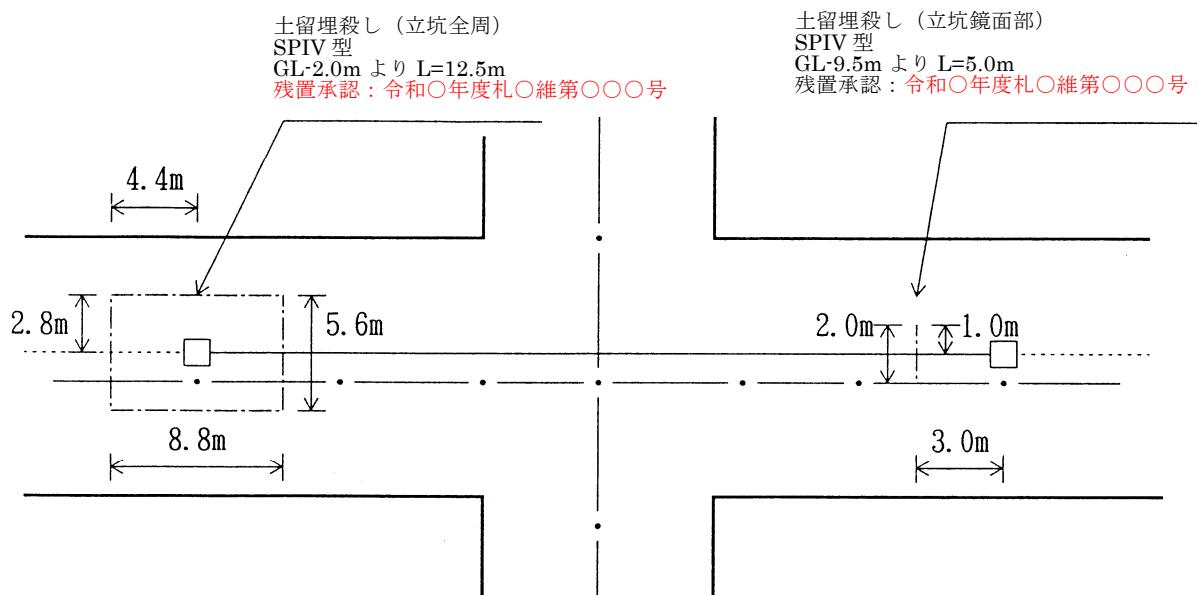
5 埋殺しとした土留工（矢板・支保工）、セメント系の地盤改良杭及び地下連続壁（S MW含）等を記載すること。

<開削の例>



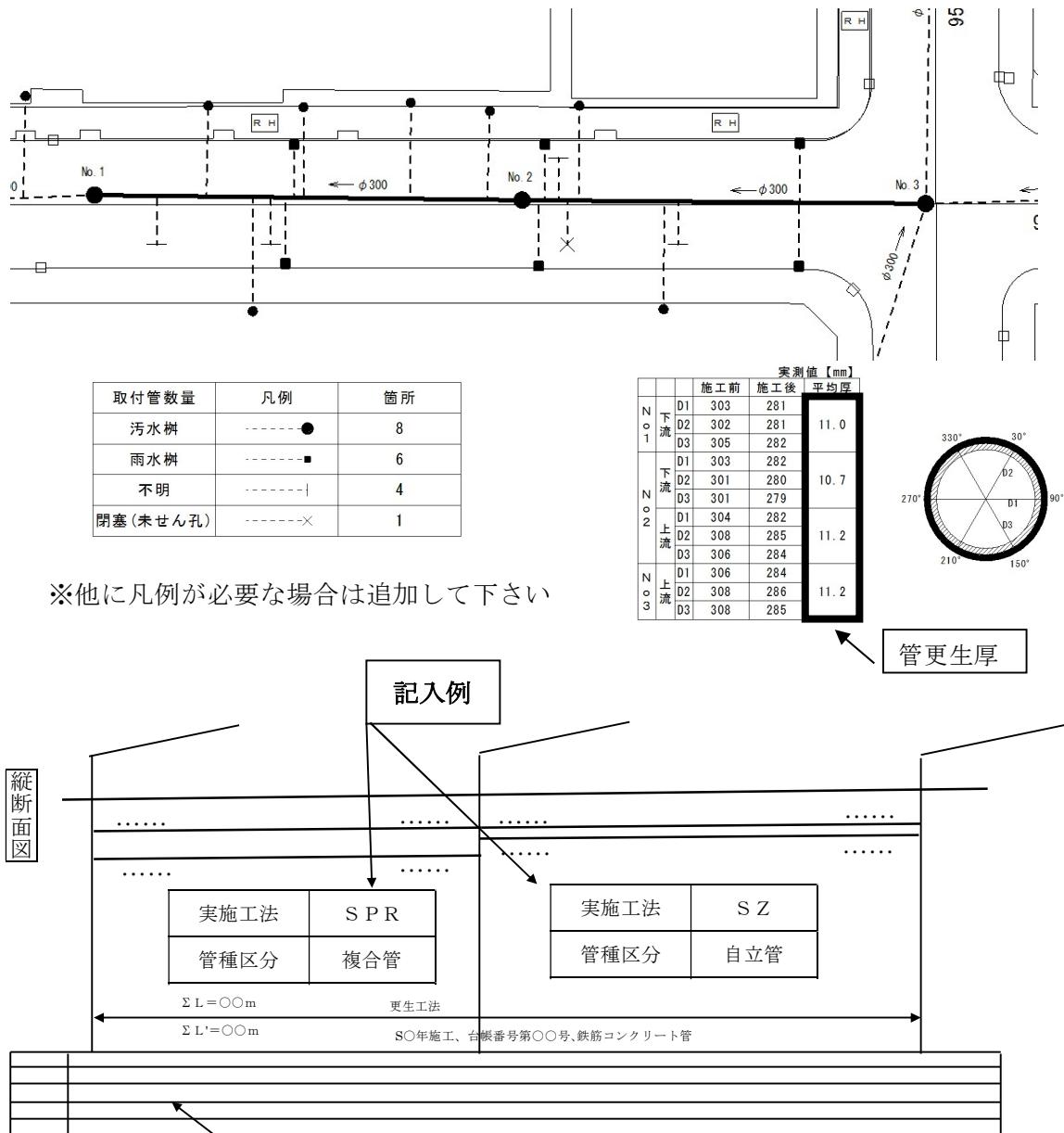
土留の種類	鋼矢板
埋殺し矢板の長さ	3.00m (GL-1.5mより)
埋殺し矢板の延長(測点)	35m (測点 30~65)
矢板の遣い分け	2/3
残置申請承認番号	令和〇年度札〇維第〇〇〇号

<推進の例>



※支保工も埋殺しの場合は、原図の余白に部材を明示した立坑断面図を記入すること。

6 管更生工法で施工した場合は、実施工法、管種区分(自立管、二層構造管、複合管)、更生管厚(製管工法の場合は仕上り内径)を縦断面図に記入すること。(管底高、土被り等の表示は更生後の値を記入)



令和 年 月 日

札幌市長 ○○ ○○ 様

受注者名
現場代理人名

工事工程月報 (月分)

このことについて、下記のとおり報告いたします

工事名				監督員 氏名	工事主任 技術職員	
工種名又は細目	工事出来高			構成比率	工出来事高	備考
	前月末 累計	当月 出来高	当月末 累計			
	%	%	%	%	%	
合計				100%	%	実際の進捗率
工事工程表の進捗率	%	翌月分の進捗率見込			%	
特記事項						

日	曜日	天候	主な作業内容	就業人数			
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
計							
累計							

打合せ事項及び指示事項
